

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
8月6日
第70号



クスノキ (クスノキ科)

不思議な生き物「トトロ」が住むほど大きくなるクスノキ。関東以西に生える常緑高木です。枝葉をちぎるとハッカのような芳香を放ち、材からカンファー（樟脳、カンフル）を採り、その成分は殺虫剤、強心剤、局所刺激剤、皮膚病の軟膏などに用いられます。昔、各地に植栽されたものが残り、今では公園や神社に巨木、高木が見られるようになりました。学内でも薬友会館前に見られます。

ところで、今回ご紹介したいのは、田辺通沿いにある数本のクスノキのうち妙な姿をしている1本です。写真を見て気づかれましたか？一度分かれた茎が再度癒着、結合して成長しています。自然の接ぎ木技術でしょうか？このように、一旦分かれた枝が癒着結合したものを「連理木」とよびます。「連理」とは男女の仲が良いという意味の縁起の良い言葉で、この縁起木が身近な所にあることでご利益があるとよいですね！全国には有名な「連理木」があるようで、名古屋では、千種区の城山八幡宮のアベマキが有名です。

ハマゴウ (シソ科)

園内、第一圃場でシソの花に似た青紫色の唇状花が見られます。名前の由来は、浜を這って生えるから「浜這（ハマゲン）」がなまったとか、枝葉に芳香があり、古くは香料として用いたため「浜香（ハマゴウ）」と呼ばれたからとか。東アジア、東南アジア、オーストラリアまで広く分布し、日本でも、東北地方南部～四国、九州沖縄の海岸の砂地などに見られる小低木です。幹は砂に埋まっていることが多く、枝先が砂浜を這い広がっている光景が見られます。石川県の加賀海岸の群落が有名です。

花が終わった後には丸い果実となり、乾燥した果実が生薬、蔓荊子（まんけいし）となります。頭痛やめまいなどに使用され、蔓荊子散に配合されますが、日本ではほとんど使われていません。